NEWS DIGEST

評議会だより

第四八一回評議会

平成七年九月十九日(火)

☆（教員選考報告）
原爆放射能医学研究所　外国人研究員
ラファエル・ジョシイフォビッチ・ローゼンソン

（報告）

一．教養的教育の改革について
教養的教育改革の検討状況及び今後の進め方について報告があった。

二．統合移転完了記念事業について
十一月一日(水)の午後を全学休講措置とすることについて報告があった。
なお、記念事業の実施に対する協力要請があった。

三．平成八年度新規概算要求事項について
本学より要求した事項のうち、文部省から大蔵省へ要求された事項及び文部省との折衝過程で要求事項が変更となったものについて報告があった。

（議事）

一．広島大学の理念について
各部局で検討の上、次回評議会に諮ることとした。

二．名誉博士の選考について
投票の結果、ヘルムート・シュミット氏及び佐竹利彦氏に対し、名誉博士の称号を授与することを決定した。

三．署名評議員の交替について
任期満了に伴う新署名評議員（平成七年十月から平成九年九月まで）として、次の三名を指名することを承認した。
廣安博之評議員（工学部）
宮澤啓輔評議員（生物生産学部）
杉惠頼寧評議員（国際協力研究科）

教養的教育改革の原案、まとまる

本学教養的教育検討委員会特別委員会（委員長＝戸田吉信総合科学部教授）が今年八月二十二日にとりまとめた教養的教育改革原案、いわゆる0次案（A4判で、I教養的教育の理念と目標・II教養的教育の実施体制・III教養的教育の内容と方法・IV学期区分および授業時間帯等の四部構成、総頁数二十七頁）が、九月十九日開催の評議会に報告され、全学で検討されている。

今回の0次案では、『「自由で平和な〝一つの大学〟の実現を目指す」という建学の精神を生かした真の総合大学の実現』を図るとともに、「すべての教官が教養的教育を担当できる新しい教育体制を整え、さらに、教養的教育充実のための全学施設の設置など、全学的視野から教養的教育を支える条件を整備する必要がある」という基本認識に立ち、平成九年度からの実施を目途に、次の三つを主な目的に据えている。

①広島大学における教養的教育の理念と目標を明確にすること。
②教養的教育の管理・編成・実施についての新たな全学的責任体制を確立すること。
③教養的教育の内容と方法について抜本的な改善を図ること。

さらに、今回の改革案のスキームとしては、

(1)教養ゼミの開設
(2)運用能力を高める方向での外国語教育の充実
(3)全学体制による情報教育の充実
(4)教養的教育にふさわしい新しい知的枠組の提示
(5)教養的教育における基礎科目の位置づけ
(6)総合科目の充実とさらなる工夫

という六点から構成され、具体的には、

I　少人数で学部単位の実施形態をとることを原則とする教養ゼミの開設
II　技能別英語・総合英語・専門英語の三種類からなる英語教育、また、英語以外の外国語では、授業科目「初修外国語への招待」の開講や外部検定制度の導入・学内での検定制度の実施やアジア系言語の拡充などを図る
III　外国語教育研究センター（仮称）及び情報教育研究センター（仮称）の設置
IV　総合科目、個別科目、補習教育をも含めた基礎科目及びスポーツ実習科目の設定

などのような実施方法が提案されている。

最後に、今回の0次案作成にあたって、戸田委員長は次のように述べている。

「…本委員会は、教養的教育改革のために、原則となるべき考え方と事項を提示した。これについても各学部からの忌憚ない批判と意見をいただき、次の段階で、さらに揺るぎないカリキュラム作成の基本を提出したいと思う。しかしながら、教育課程を変えることは、教養的教育改革の土台と枠組を提供するに過ぎない、このことを全構成員は銘記する必要があろう。仏は作る。全教官は心してこれに魂を入れるべきである」。

佐竹氏とシュミット氏に名誉博士号を授与

本学では、統合移転完了記念事業いわゆるフェニックスフェスタの一環として、佐竹製作所（本社東広島市）会長の佐竹利彦氏に名誉博士号を授与した。

佐竹氏は、ヤシ・ソテツ類植物の世界的収集家で、これまで希少植物として国際的商取引が規制されているソテツ類植物の理学部附属植物遺伝子保管実験施設への寄贈や外国人留学生に対する奨学金の支給また多額の奨学寄付金の提供など本学の教育研究活動の支援や国際交流の発展に尽力された。

またシュミット氏は、ドイツの名において犯した過去の惨劇に沈黙することなく、政治家として道徳を政治の基礎に置く信念を失うことはなかった。十一月一日には「追憶・哀傷そして責任」と題して記念講演が行われる予定だが、その記念講演に先立って名誉博士号を授与する予定。

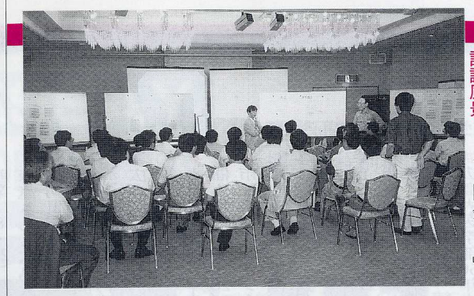
学長から佐竹氏に名誉博士号が授与される

西岡みどり名誉教授、内閣総理大臣表彰を受ける

本学の西岡みどり名誉教授が、九月二十六日(火)国立教育会館で、男女共同参画社会づくり功労者として内閣総理大臣表彰を受けた。

今年九月に北京で第四回世界女性会議がアジアで初めて開催され、二十一世紀に向かって女性問題の解決のための行動が一層活発に行われようとしている。

そこで、男女共同参画社会の一層の実現と世界の動向について広く周知を図ると共に、世界女性会議の開催を記念して、男女共同参画社会づくりに特に顕著な功績のあった者に対し内閣総理大臣表彰が行われたもので、西岡名誉教授は、長年にわたる「カエル」の研究で特に優れた業績を上げたことが認められたものといえる。


討議風景

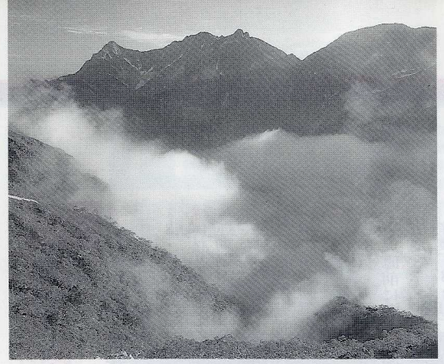
「第二回医学教育者のためのワークショップ」を開催

医学部は、「第二回医学教育者のためのワークショップ」を八月十九日、二十日、広島市内のホテルで開催した。

今回は、「教育改革を推進するために、教育への関心を深め、望ましいカリキュラムを開発する」ことを目標として、自らが担当する教育の中で直面する問題の解決法を探り、さらに、医療における新しい課題に対応する教育技法を身につけ、今後の教育改革の推進にこたえようとするもの。

原田学長、調枝学部長の挨拶、オリエンテーション、三人のタスクフォースの趣旨説明の後、四グループに分かれ、教官四十人が合宿し、熱心に討議、発表がなされた。参加者も昨年に比べ講師・助手層の若い教官が多く、与えられた課題に精力的に取り組み、予定された討議時間もしばしば不足気味であった。

終了後、大方の参加者から「効果のある教育を目標に、この経験を活かしたい」と、有意義な参加であった感想が述べられた。


「西岳からの穂高連峰」
（1995年8月29日　北アルプス西岳にて）
2か月に及ぶ夏の連続登山の，
最後の展望地に，今私はいる。
この夏最後の大展望が，心を震わせる。
沈んだ雲は殆ど動きもせず，
穂高の勇姿をひきたてていた。
（経済学部3年　滝本勇紀）

同窓会連合会設立発起人会が開催される

去る十月二日(日)午後三時から、学長室で同窓会連合会設立発起人会が開催された。

今後は、十月二十六日(木)に同窓会連合会（仮称）第一回理事会が開催される予定であり、同窓会連合会の設立に向けて着々と準備が進められている。

図書館からのお知らせ
―土曜日の開館時間を延長、中央・東・西図書館で実施―

利用者の皆様から要望の多かった土曜日の開館時間の延長を、十月十四日の土曜日から行っています。

実施している図書館は、中央、東、西図書館です。新しい開館時間は、午前十時～午後五時です。なお、医学分館は従来どおり（午前九時～午後四時三十分）です。

移転後の残務整理を抱え、大変な毎日が続いていますが、更なるサービスを図るため努力していますので、今後ともご協力をお願いいたします。

教職員レクリエーション行事のお知らせ

今年度のレクリエーション行事は、年六回計画されています。

このうち、八月二日と三日の両日に開催されたバレーボール大会では、総合科学部Aチームが優勝、工学部の「NOMO」チームが準優勝、庶務部「ファイヤーズ」が第三位になっております。

また、八月二十三、二十四の両日開催されたソフトボール大会では、医学部「オーダリング」が優勝、庶務部の「ナマ・庶務部」が準優勝、理学部及び工学部がともに第三位になりました。

今後の予定は、十月二十二日(日)にバスハイキング（倉敷市美観地区散策）が予定されており、十二月六日(水)には「広電プラザ」でボウリング大会が、また、時期は未定ですが、三原地区及び福山地区で「東部地区レクリエーション」が予定されています。

また、二月には学内で高い評価を得ている文芸誌「不死鳥」第35号が発刊される予定です。

（庶務部人事課）

各種表彰等の受賞について

工学部の山下英生教授と金田和文助教授が、九月一日、「光源の配光特性を直交関数表現することにより、種々の異なる光源により照射された室内の画像を極めて高速に作成する手法を新たに考案し、コンピュータグラフィックスを用いた照明設計に関する研究に貢献」したことにより、「EUROGRAPHICS '95」最優秀論文賞を受賞した。

また、理学部附属臨海実験所の道端齋教授が、九月十六日に「ホヤによる金属元素、特にバナジウムの濃縮機構に関する研究」により日本動物学会賞を受賞した。

時期的には少し遡るが、二月二十四日に学校教育学部の景山三平教授が、「統計数字と組合せ論に関する研究」の功績が高く評価され、「International Man of the Year－1994/95」を受賞し、歯学部の丹根一夫教授と京面伺吾助手が、「歯周組織の加齢変化と歯の移動の関連性」の研究により、米国カリフォルニア州歯科矯正研究協会の研究奨励賞を受賞し、副賞二千ドルを手にした。

広大生協ベストセラー・トップ・テン

①ソフィーの世界
ヨースタイン・ゴルデル　NHK出版
②英文法の謎を解く
副島隆彦　ちくま新書
③21世紀への委任状　宮澤喜一　小学館
④政治的に正しいおとぎ話
ジェームス・フィン・ガーナー　DHC
⑤民族と国家（講座世界史3）
歴史学研究会編　東京大学出版会
⑥書く技術　なにをどう文章にするか
森脇逸男　創元社
⑦トンデモ本の世界　と学会編　洋泉社
⑧Linuxネットワーク環境　前原輝雄編
蕗出版
⑨らせん　鈴木光司　角川書店
⑩新編　英和活用大辞典
市川繁治郎ほか編　研究社

★投稿規定

一．文字数は二千字以内とします（図、写真は、一枚を二百字と換算）。原稿は、原則としてMS－DOSのテキストファイルのフロッピーディスクに記入し、ハードコピーと図表を別途添付してください。
二．本文には、四百字程度で小見出しをつけてください。
三．原稿は原則として掲載します。ただし、特定の個人及び団体を誹ぼう中傷する原稿または本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は、掲載しません。
四．採否は広報委員会で決定します。
五．提出された原稿は、掲載の有無にかかわらず、返却いたしません。

★本号は十一月に開催されるフェニックスフェスタ総特集号となりました。そのため、シリーズとして掲載しておりました「開かれた学問」「施設紹介記事」「国際協力研究科シリーズ」「自著を語る」が、また、投稿（後半）につきましても、次号の掲載になりました。ご了承くださるようお願いします。

なお、次号は、フェニックスフェスタ報告号として十二月中旬に発刊される予定です。